

柏市下水道事業中長期経営計画の概要

経営計画策定の背景と目的

【素案】P1～5

柏市は市制施行 65 周年を経過し、人口 40 万人を超えるまでに発展してきましたが、将来を見据えると、少子高齢化と人口減少が加速していく時代が到来しつつあり、今後はこのような状況に対応する行財政運営の基礎となる財源の確保、経営資源の配分等をどのように実践していくのが課題となってきます。

《柏市の下水道事業》

- 昭和 35 年に事業着手
- 人口急増期に集中的に施設・設備を整備
- 執行体制：下水道経営課・下水道整備課・下水道維持管理課・（※一般会計の担当部署として）河川排水課
- 下水道処理人口普及率：90.3%（H30 年度末）

今後、下水道事業の経営環境は次のような理由から厳しさを増していくものと考えられます。

- 施設の老朽化により、修繕・更新需要が増大
- 浸水対策、地震対策、合流式下水道の分流化等への対応も必要
- 将来的に使用料収入が減少（水需要量の減少）

このような背景から、下水道サービスを将来にわたり安定的に提供するため、平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間を計画期間とした「柏市下水道中長期経営計画」を策定したところですが、事業の進捗状況等を考え、後期 5 年間にに向けた見直しを行いました。

背景

- 急速な都市化による人口の急増
- 手賀沼等の水質汚濁の顕在化

人口急増に伴い施設・設備の整備を推進

今後の課題

- 老朽化に伴い更新投資が急激増大
- 人口減少に伴い使用料収入が減少

厳しさを増す経営環境

下水道サービスを将来にわたり安定的に提供するために・・・

- 中長期的な視点に立った計画的な経営基盤の強化
 - 財政マネジメントの向上
- 事業の進捗状況等を考えた見直しが必要

柏市下水道中長期経営計画の見直し

図 1 経営計画見直しの背景と目的

和暦(年)	平成 28	29	30	令和 元	2	3	4	5	6	7
西暦(年)	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
第五次総合計画基本構想(期間 10 年)	→									
第五次総合計画基本計画(期間 5 年)	→ 前期基本計画					→ 後期基本計画				
柏市下水道中長期経営計画(期間 10 年)	→ 前期 (H28～R2)					→ 後期 (R3～R7)				
ローリング(期間 5 年)	→ 経営計画指標の評価・分析					→ 後期 5 年の計画見直し 経営計画指標の評価・分析				

図 2 本計画の期間

経営理念と基本方針

【素案】P15

柏市下水道事業の将来像を「施策」, 「経営」の観点から整理し、柏市総合計画を踏まえた上で「経営理念」, 「基本方針」を次のように設定しました。

経営理念

下水道サービスを将来にわたり安定的に提供する

基本方針

環境：市民のみなさまの快適な生活を支えるとともに、未来につなぐ豊かな水環境の保全と環境に優しい循環型社会の推進に貢献します。

安心：安全で安心できる暮らしを守ります。

持続：健全経営のもとで施設の機能を維持し安定した事業経営の持続性を確保します。

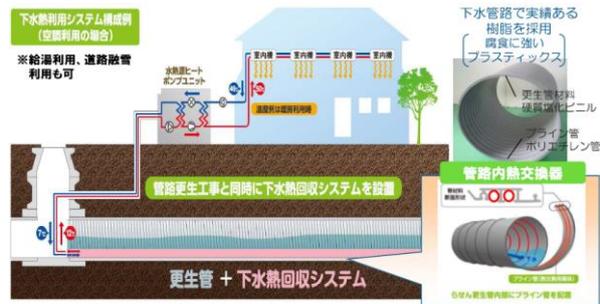
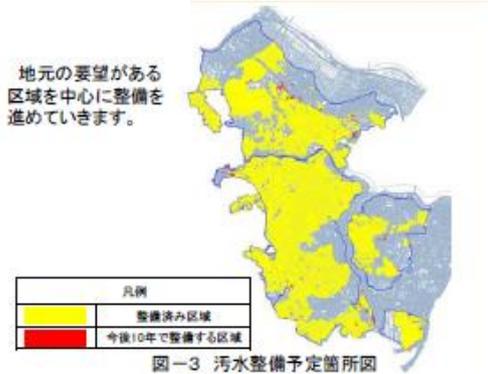
施策の方向性と目標

柏市下水道事業の施策体系について、施策の分類別に「現状及び課題」を整理し、それに対する「具体的施策」とその目標を以下に示します。

環境

北部区画整理事業区域内を含む未普及地域の下水道整備を進めます。また、水環境保全や循環型社会の推進に資する事業として、手賀沼の汚濁負荷削減のための合流区域の分流化や、下水熱利用について検討を進めます。

施策の分類	具体的施策	評価指標等	単位	実績 (H30)	前期目標 (R2)	後期目標 (R7)	後期5年間の事業費
汚水対策 【素案】 P7,18~19	未普及地域の解消	下水道処理人口普及率	%	90.3	91	92	25.11億円
	北部区画整理事業の整備	北部区画整理事業の整備率	%	61.9	65	73	
環境保全 【素案】 P10~11, P20~23	手賀沼の汚濁負荷軽減(合流区域の分流化)	合流式下水道改善率	%	21	21	26	4.15億円
	創エネルギー	下水熱利用	—	未実施	先進事例研究	導入可能性検討	

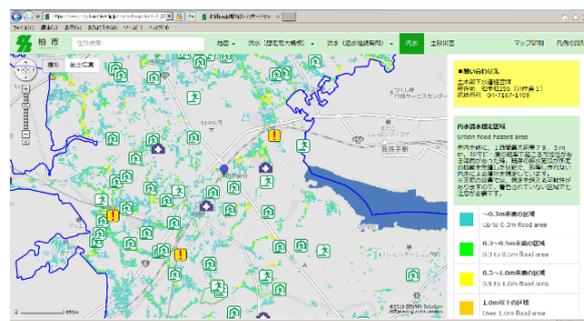
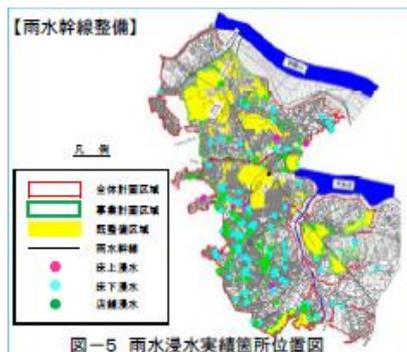


出典：「下水熱でスマートなエネルギー利用を～まちづくりにおける下水熱活用の提案～」(国土交通省下水道部, 2013)

安心

雨水(浸水)対策としてハード(雨水管)の整備やソフト対策を進めるとともに、総合地震対策計画で策定した事業を進めます。

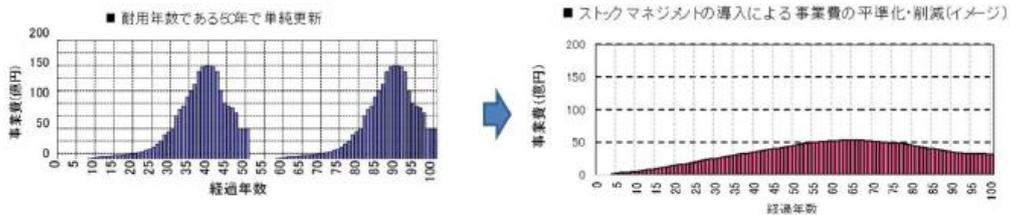
施策の分類	具体的施策	評価指標等	単位	実績 (H30)	前期目標 (R2)	後期目標 (R7)	後期5年間の事業費
雨水(浸水)対策 【素案】 P8,24~25	ハードの整備	下水道による都市浸水対策達成率	%	40.4 (21.9)	41 (22)	42 (23)	34.75億円
地震対策 【素案】 P9,26~28	下水道総合地震対策事業の推進	下水道総合地震対策事業の実施状況	—	実施	実施	実施	7.00億円



持続

下水道施設の老朽化に対して、ストックマネジメント手法を継続して適切な維持管理・改築を実施し、耐用年数を経過しつつある篠籠田貯留場を改修するとともに、市民と協働しながら下水道事業の経営健全化に努めます。

施策の分類	具体的施策	評価指標等	単位	実績 (H30)	前期目標 (R2)	後期目標 (R7)	後期5年間の事業費
老朽化対策 【素案】 P12,29～32	ストックマネジメント手法の継続	ストックマネジメント計画の策定	—	策定済	評価・見直し	評価・見直し	76.22 億円
		老朽管調査率	%	14.1	56	100	
	管路改修率	%	—	75	100		
経営の健全化 【素案】 P13,33～35	経営計画の適正管理	経営計画の策定状況	—	第1期前期進行中	第1期後期改定	第2期(R8～17)策定	※経常経費にて対応
		経常収支比率	%	104.7	100	100	
		企業債元利償還金対料金収入比率	%	70.9	70.2	56.5	
	経費の削減，使用料収入の適正化	経費回収率	%	95.6	100	100	
技術力の維持，新技術の活用	新技術の活用状況	—	—	—	活用検討		
市民との協働 【素案】 P14,36～37	広報の充実	広報活動の実施回数	回	6	5	5	※経常経費にて対応
	環境教育の場づくり	下水道を通じた環境教育の場づくり	—	実施	実施	実施	
	指標による事業評価	経営委員会による指標等による事業評価	—	実施	実施	実施	



図一七 スtockマネジメントの導入事例

出典：下水道ストックマネジメント支援制度（国土交通省，平成29年3月）



KASHIWA ココ撮れマンホール

広報別冊版

図一八 広報活動の事例